



文庫  
158

連歌付合物名並去嫌歌  
(伍卷)

伊能知事書

連歌集



一 房よき

糸房

都道房

板房

鶴野房

中房

名の方

すけ房

初房

まよなの方

一 梨よき

はま房

おま房

かき屋 入裏有

一 神よき

きん房

炭の神

時神

るしの神

産まぬの神

あひまの神

おまの神

月の神

草の神

衣の神

あまの神

露の神

雲の神

曇深の神

霧の神

川の神

情の神

雲の神

錦の神

紅名神

あまの神

名残の神

空の神

一竹よ冬

く積竹

なまの竹

川の竹

けの竹

竹のま

竹のあま戸

竹の葉

竹のま

名なれ所

竹のま

竹のま

一鏡よ冬

あまの鏡

海の鏡

鏡れら

あまの鏡

取是れ鏡

吾れ鏡

まは鏡

日よ鏡

月れ鏡

鏡乃山

鏡川

水の鏡

鏡な

海の鏡

あまの鏡

一橋よ冬

糸橋

板橋

雲橋

飛橋

山橋

紅橋

曇深橋

くま橋

橋白

橋舌

庭橋

八重橋

三重橋

初橋

建橋 橋橋 橋會川  
橋多れ社

一松多々 唐松 一松松

一木の松 出松 島松

明の松 いさ松 尾松

後者の松 武家の松 わさ松

門の松 若代の松 しん松

松の戸 松の家 ぶ白の松

姫の松 おま松 こ松

三保の松 赤松の松 赤松の松

一松多々 五松 若松

川松 唐松 切松

この松 今の松

一松多々 よ松 う松

こ松 蒼松 蒼松

一松多々

一松松 松の松

松の松 麻の松 切松

雲の松 松の松 松の松

松の松 松の松 松の松

一枕よ多々

多枕

被枕

こし枕

里枕

硯枕

炭枕

菖蒲枕

土枕

松根枕

枕巻

草枕

浪枕

穀妙所枕

一船よ多々

海客小船

しるし船

格小船

汐船

棚子小船

こま舟

叩舟

仰舟

物舟

船系舟

小系舟

あし舟

くし船

舟船

あは舟

うは舟

あ舟

ゆり舟

あ舟

あし舟

とら舟

一芥よ多々

田舎舟

こ舟

根舟

舟川

舟舟

一舟よ多々

寺舟

石舟

あし舟

舟舟

舟舟

一橋よ多々

水の橋

庭の橋

花橋

橋の名

橋の名

一棧よ多々

土棧

白土棧

八の日の格 八の日の格 八の日の格

一宿よひきき 道中よひきき 浅草よひきき

夕歌の宿 夕歌の宿 夕歌の宿

月の宿 月の宿 花の宿

一宿よひきき 道中よひきき 浅草よひきき

夕歌の宿 夕歌の宿 夕歌の宿

月の宿 月の宿 花の宿

夕歌の宿 夕歌の宿 夕歌の宿

月の宿 月の宿 花の宿

夕歌の宿 夕歌の宿 夕歌の宿

夕歌の宿 夕歌の宿 夕歌の宿

月の宿 月の宿 花の宿

夕歌の宿 夕歌の宿 夕歌の宿

月の宿 月の宿 花の宿

夕歌の宿 夕歌の宿 夕歌の宿

月の宿 月の宿 花の宿

夕歌の宿 夕歌の宿 夕歌の宿

一宿よひきき 道中よひきき 浅草よひきき

夕歌の宿 夕歌の宿 夕歌の宿

月の宿 月の宿 花の宿

夕歌の宿 夕歌の宿 夕歌の宿

一二月 鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

一卯月 鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣

一五月 鳥の巣 鳥の巣 鳥の巣



梅のぬ

橋

萬葉

花吉

櫻さく  
葉うるま

あうら草

花白草

竹のひ

あし

又苗

田うゆり

金おろし

との花

文うみ草

あや

らあや

一六

林の種

さきのうみ

海

夕之

蝉

川

蚊の勢

あや

夕歌

常盤

なご

石の竹

花

さゆり

揚和

夏生

ふなれ揚

よきしむら ぬきしむら 花の目

あきさ白

あせ

流るしむら

うら

水

うら

うら

一七

初秋

くらら

初嵐

うら

あまの川

うら

鶴橋

お原の橋

七夕

星あひ

丹

梅のお茶 ころも

萩の茶

八月

萩

萩

萩

女らむ

色紙

月見草

あらしま

白草の色

あまのけの紙 ますも茶 草の花

薔薇の花

子猫

田りり

田の草

草のうら

野のうら

野のうら

鳥子

えとら

ゆき鳥のうら

小鳥

ゆき鳥

一月

鴨

鶴

こぎらぎら

うら

床

とら

こら

衣

生

雪

衣

秋草

萩

佐城生

草花

萩

秋草

ゆき鳥のうら

ゆき鳥

ゆき鳥

お茶のうら

梅のお茶

秋のお茶

萩

あらしま

柳

こぎらぎら

ゆき鳥

栗

女の茶

萩

ゆき鳥

柳のお家 鳥のお家 人のお家

菊 魚のうが 燕草

夕焼けの家 さくら餅 苺餅

薄 ぶすす 秋草

庭の草花 はらばら 山吹草

あまのこ

一十月 あまのこ 秋草 秋草

山草 小の葉 苺草

お祭りらう 小の松 枯野

草の松 木枯風 色き

さきうら こ 水 けら

月の水 月の草 月の草

鶴狩 鶴鴨 水鳥

浮島

一十月 霜月 暮る草

そらねり 埋火 網代草

秋草 夕火

一十月 三早 年の目

年の草 夕火 暮る草

あまのあらし

一禁年

はらみゆのこ 高野の葛

茶又

はらみゆのこ 高野の葛

入内

はらみゆのこ 高野の葛

大名人

はらみゆのこ 高野の葛

文法

はらみゆのこ 高野の葛

御年

はらみゆのこ 高野の葛

ちりり

はらみゆのこ 高野の葛

玉のち

はらみゆのこ 高野の葛

御庭

はらみゆのこ 高野の葛

梅枝

はらみゆのこ 高野の葛

一祇

神代

高

神代

多又

神代

御庭

神代

御池

神代

井垣

神代

八重垣

神代

しで

神代

あしにそ

神代

あしにそ

神代

利生りせい ちんいん 二 後ご 八はち 師し

ら 鳥井 妻つま 孫まご

福来 ぬいひ 水みづ 師し

みろくの林

一 教 佛ぶつ 法ほふ 法ほふ 師し

げの道 阿あ 海かい 院いん

教きやう 迎むかひ

いしや 見み 流りゆう く

罪つみ 科か

即すなはち の 鐘かね

寺てら

を 曉あき

おまひ

檜ひのき

あつこ

ぶ寺 屯とん 梅うめ

常じやう の 新あらた 火か

一 抱かか 杖づゑ

一 色しき の 分ぶん 無む 言ごん

ゆ 色しき

色しき 色しき

別べつ 海かい

を 取と 取と

きやうく

あふ

は 心こころ

笑わら わ

あまひ

あまひ 心こころ

を 魚うい な

く 人ひと

あまひ 人ひと

妻つま

人ひと 林はやし

あまひ 心こころ

海うみ の 洞ほら

神かみ の 宮みや

あまひ 心こころ

むらど

新あらた う

あまひ 心こころ

あふ

したふ

あまひ 心こころ

えのこ

あはる

少こ

まをま

おろし

根川

いり

おのちり

花

一 復傷

なま

まの川

なま

石

鳥

鳥

い

う

氷

夏

夕

志

い

あ

一 産懐

世

世

第

世

桑

才

才

病

文

夏

み

生

細

老

年

年

鉄

音

と

と

河

あ

一 魚

魚

魚

林

石

木

物

物

木

川

父

あ

一山歌神 山峯 嶽 高嶺

多之云 葉 山 墨

洞坂 崎 湖川

一山歌用 積 湖川

炭電 柺木 仙人 神用所

炭燐 神用所

一水邊神 海浦 海岸 行

魚は 沖磯 諸磯 崎

主河 濱川 池 海 崎

磯 別

一石邊神 舟 浮舟

漁民 海釣人 網 藤屑

濱沖 鴨 崎 鳥 貝

多鶏 五 崎 崎

甲 貝 崎 貝 崎 貝

梅の 貝 貝 貝 貝

多 貝 崎 貝 崎 貝

わ 貝 崎 貝 崎 貝

鈴 崎 崎 貝 崎 貝

一居 崎 崎 崎 崎

屋敷 柳 宜 斬

高戸 門 垣

園戸 松戸 葦屋

卯面 肴 隣 村

小 庵

一 段 下 町 屋

北 右 端 段 方

園 屋 三 尺 舟 渡

一 人 端 下 人 我

舟 渡 舟 渡

戸 窓

里 園 屋

松 戸 松 戸

卯 面 肴 庵

有 屋 下 町

園 草 竹 舟

園 出 舟

舟 渡 親 舟

舟 渡 舟

舟 渡 舟

舟 渡 舟

舟 渡 舟

舟 渡 舟 舟 渡 舟

舟 渡 舟 舟 渡 舟

舟 渡 舟 舟 渡 舟

舟 渡 舟 舟 渡 舟

舟 渡 舟 舟 渡 舟

一 段 下 町 舟 渡 舟



一 らの舟 おとら家 ころ

ひくー ちの川 ぬ

一 連袂 甘合 志 秋 中

一 屯 梅 橋 古 野 中 ありき

一 橋 秋 台 野 柳

一 柳 橋 道 之 ち ち 橋 本

一 躑躅 折 岩 大 小 石

一 秋 之 川 の 秋 井 之 里 岩

一 友 仁 田 之 浦 景

一 仁 ありき ち 秋 仁 名

一 秋 ありき 三 橋 横 川

一 橋 原 初 秋 ち 秋 中

一 洞 ありき ち 秋 中

一 ち ありき 秋 ち 井

一 如 原 三 日 橋 入 大 木 たく

一 衆 ありき け 了 人 ち 心 本 の 中

一 推 ありき の ち せ 心 二 の 心 ち 本

一 梨 ありき ありき ち 心 中 冠

一 竹

名 竹 竹

一 徳

音 神の音 山月音

一 卯花

音 布とくと 神

一 三福

しんぷく ふか じ

一 袖

ちゆ しのわらひらほと

一 徳

りんと りんち 三夜

一 中

りんち 友 友の音

一 木の葉

はな 木葉野 木の音

一 草花

はな 草花野 草の音

一 草花

はな 草花野 草の音

一 燕

あ 山ト 軒端

一 花

花 花 花馬

一 花

か 神 日宿 朝

一 草花

はな 草花野 朝根

一 花

あ 山ト 軒端

一 花

あ 山ト 軒端

一 花

あ 山ト 軒端

一 花

あ 山ト 軒端

一 花

あ 山ト 軒端

一 草花

あ 山ト 軒端

川のまじり

一馬鹿

あさうのあまよあまよのあまよ

一萩

りともこのまじりまじりのま

一輪

の秋 舞 ぶらぶら

一葛の葉

うらこ 思 きたの森

一けら

山道なまき ぶらぶら

一蕙

船取入の形よふふ あまよ

一もくろ

かたたくもくろ流

一苗

あまよのまじり

一葦原

海の面影 あまよ

一菊

舞 まじり

山行

山道

一柳の葉

海と田代池 あまよ

一土筆

糸 花の下木 あまよ

一すしれ

まじり あまよ

一月のひ

あまよ 物まじり

一虎杖

ふひろまじり

一菅

福あまよ

一松

あまよ

一常盤

あまよ

一百合草 聖徳太子 公 灯火

一 三河 不 教

一 草 軒 日 草

一 草 草 草

一 草 草 草

一 日 草

一 夕 草 草 草

一 草

一 草 草 草

一 草

一 藤 草 草

一 藤 草 草

一 草 草 草

一 草 草 草

一 草

一 草 草 草

一 草 草 草

一 草 草 草

一 草 草 草

一 草 草 草

河一なる

田々の浦

一子山

富士宮 阿母? 松原

一忍

阿右 渚 葛原 津久

一嵐山

源家 康寺 秋の唐わ

立の井

一宮

孤梅 岡 瀧 谷

一石古

原くき 志のりるも 志の

一室産

粟津の 粟津山 かのり

一知文

志の野 わさ家 かのり

一産

蛤 山 産金のり

一鶴

夜 志のり 小産 山

一山産

くろく 志のり 山 浦

一鴨

志のり 秋の 志のり

一鴨

志のり 志のり 志のり

一鳥

志のり 志のり 志のり

一鳥

志のり 志のり 志のり

一鳥

志のり 志のり 志のり

一鳥

志のり 志のり 志のり

一山鳥

志のり 志のり 志のり

一鳥

志のり 志のり 志のり

一 鷗

鷗井 隣 林 眠

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 鷗

鷗 鷗 鷗

一 羊

けしよ祝可 ああらう

一 狗

つらくさあ家 言はれぬ

一 牛

中きり馬車に物ごと

はれ 雲 境

一 鯨

あゝ海 塩くく

一 鯉

はあ 泣

一 鯛

つらあやあ海境とまを

一 鰯

あゝ梅 塩の浦あゝ

一 蟹

あゝあ母 桂川 鱈

一 鱈

あゝああ

一 魚

あゝああ

一 天

あゝああ

一 舟

あゝの舟あゝ川

一 日

あゝああ

一 人

あゝああ

一 皇

あゝああ

一 皇

あゝああ

一 却

あゝああ

一 切

あゝああ

一 泉

あゝああ

一 暖泉

此の如くおぼしめす

一 柳屋

此の如くおぼしめす

一 嵐山

此の如くおぼしめす

一 松屋

此の如くおぼしめす

一 大井川

此の如くおぼしめす

一 梅川

此の如くおぼしめす

一 湯島

此の如くおぼしめす

一 大北敷

此の如くおぼしめす

一 横川

此の如くおぼしめす

一 庄

此の如くおぼしめす

一 湯島

此の如くおぼしめす

一 文久

此の如くおぼしめす

一 湯島

此の如くおぼしめす

一 木場

此の如くおぼしめす

一 文久

此の如くおぼしめす

一 湯島

此の如くおぼしめす

一 湯島

此の如くおぼしめす

一 湯島

此の如くおぼしめす

一 湯島

此の如くおぼしめす

一 湯島

此の如くおぼしめす







おのれをいふはまのたけのこ

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを

月夜にそよぐはなを



一  
海邊の草花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

花の園

関七郎の指し方

月夜に女一人傷もあらず

女一人のあはれ

女一人のあはれ

女一人のあはれ

女一人のあはれ

女一人のあはれ

女一人のあはれ

女一人のあはれ

女一人のあはれ

関七郎の指し方

月夜に女一人傷もあらず

女一人のあはれ

女一人のあはれ

女一人のあはれ

女一人のあはれ

女一人のあはれ

女一人のあはれ

女一人のあはれ

女一人のあはれ

又和の秋の葉なほ花のこころ

ののちのちのちのちのちのち

空を渡る鳥のこころは

あふくあふくあふくあふく

白雲の影をまはるる

ののちのちのちのちのち

山に暮る雲の影をまはるる

あふくあふくあふくあふく

晴の空の影をまはるる

あふくあふくあふくあふく

秋風は又雲の影をまはるる

あふくあふくあふくあふく

空を渡る鳥のこころは

あふくあふくあふくあふく

山に暮る雲の影をまはるる

あふくあふくあふくあふく

晴の空の影をまはるる

あふくあふくあふくあふく

秋風は又雲の影をまはるる

あふくあふくあふくあふく





川押と面を流るる家と張らるる

舟はちからたれどるるるるる

とてそ目梅とせむたてとるるる

下下流の流るるるるる

えり身はしるるるるるるる

ものかたなるるるるるる

えは流に流るるるるるるる

かきぬの流るるるるるる

をさるるるるるるるるる

流るるるるるるるるる

流るるるるるるるるる

りかたの流るるるるる

流るるるるるるるるる

今下流の流るるるるる

流るるるるるるるるる

りかたの流るるるるる

流るるるるるるるるる

りかたの流るるるるる

流るるるるるるるるる

りかたの流るるるるる

車あらしの音に  
あはれをこぼす

あはれをこぼす

牡丹の香に  
あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす

あはれをこぼす



君ははるかに遠くをゆく

命はまはるかに遠くをゆく

成るはるかに遠くをゆく

はるかに遠くをゆく

集るはるかに遠くをゆく

はるかに遠くをゆく

林をゆくはるかに遠くをゆく

はるかに遠くをゆく

あはるかに遠くをゆく

はるかに遠くをゆく

春ははるかに遠くをゆく

はるかに遠くをゆく

徳ははるかに遠くをゆく

はるかに遠くをゆく

はるかに遠くをゆく

はるかに遠くをゆく

二のつれははるかに遠くをゆく

はるかに遠くをゆく

愛のつれははるかに遠くをゆく

はるかに遠くをゆく



三つとて海に流す事なり

しるしとて海に流す事なり

都ては流す事なり

境の事なり

沿ありて道傍に

しるしとて海に流す事なり

流一とて海に流す事なり

かゝる海に流す事なり

は流す事なり

しるしとて海に流す事なり

しるしとて海に流す事なり

しるしとて海に流す事なり

将ては流す事なり

しるしとて海に流す事なり

海に流す事なり

しるしとて海に流す事なり

小車に流す事なり

しるしとて海に流す事なり

流す事なり

しるしとて海に流す事なり



父のつとむるもれはな

やうとくはあつた

多かり、身歎はまら

あつたの後のあつた

火のつとむるもれ

業のつとむるもれ

まのつとむるもれ

業のつとむるもれ

業のつとむるもれ

業のつとむるもれ

寝のつとむるもれ

業のつとむるもれ

揚寝のつとむるもれ

業のつとむるもれ

橋のつとむるもれ

業のつとむるもれ

平のつとむるもれ

業のつとむるもれ

業のつとむるもれ

業のつとむるもれ



梅乃後くさくさの枝をさへ

信一師器

心それ情の差乃

梅の花白く梅より

梅りちあふさくさく

白のさくさく

梅りちあふさくさく

梅りちあふさくさく

梅りちあふさくさく

信の又さくさく

梅りちあふさくさく

梅りちあふさくさく

梅りちあふさくさく

梅りちあふさくさく

梅りちあふさくさく

梅りちあふさくさく

梅りちあふさくさく

梅りちあふさくさく

梅りちあふさくさく

植物より二百種あるが前代を

考へてこれより前代と云ふは

人知りた植物はさうも少くも

あるものがあるからさういふ

人より種々の植物を採集する

ものはさうも多しと云ふは

お説に云ふはさういふこと

はさういふことであるから

澤山の島の植物を採集する

ものはさうも多しと云ふは

植物と云ふはさういふこと

はさういふことであるから

さういふことであるから

さういふことであるから

是に云ふはさういふこと

はさういふことであるから

鳥の採集のありかたはさういふ

ものはさうも多しと云ふは

鳥の採集のありかたはさういふ

ものはさうも多しと云ふは

はさういふことであるから





此の歌は月夜に  
中月ありては  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

懐  
懐  
懐

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

思ふに  
思ふに  
思ふに

あつた野にうづら

草のふさぎあるは

山懐の紙にまは

らまはるるまは

昔衣をうづら

たのふさぎ

ほろりうづら

うづらうづら

うづらうづら

うづらうづら

うづらうづら

うづらうづら

うづらうづら

うづらうづら

うづらうづら

うづらうづら

うづらうづら

うづらうづら

うづらうづら

うづらうづら

細物れ花乃 淡飯花  
あまきこし

飯乃ゆき 女の家  
あまきこし

松垣  
あまきこし

浦飯乃  
あまきこし

お香あや  
あまきこし

あまきこし  
あまきこし

あまきこし  
あまきこし

お坂山  
あまきこし

山歌  
あまきこし

名橋や  
あまきこし

山歌  
あまきこし

清見寺の

清見寺の

清見寺の

清見寺の

山部乃具古物れ具日山部

山部乃具古物れ具日山部

鶴乃山部乃鶴乃林と山部

鶴乃山部乃鶴乃林と山部

人乃山部乃鶴乃林と山部

人乃山部乃鶴乃林と山部

意乃山部乃鶴乃林と山部

意乃山部乃鶴乃林と山部

鳥乃山部乃鶴乃林と山部

鳥乃山部乃鶴乃林と山部

新乃山部乃鶴乃林と山部

新乃山部乃鶴乃林と山部

細乃山部乃鶴乃林と山部

細乃山部乃鶴乃林と山部

幸乃山部乃鶴乃林と山部

幸乃山部乃鶴乃林と山部

志乃山部乃鶴乃林と山部

志乃山部乃鶴乃林と山部



アハタス

縣石波平の神

あつたはにまゝの

神

神

毛

平野の

サウラヒ

新

り

實

總

芭

草

神

七

モス

元

小

糸

神

糸

糸

種よの花はくらくくさるみか

寝<sup>こ</sup>のりや言れまは

里社東塔舎あなや

あなとあなとあな

可憐のうさしあな

あなとあなとあな

ねたに所々人杖

あなの花は

花はあなとの

うへあな

あな

うへあな

藤花の草薙

あな

送舟水鶏

あな

夢の草

あな

あな

あな





そあ〜は物あ〜肩人頼  
〜物〜

〜物〜  
〜物〜

〜物〜  
〜物〜

〜物〜  
〜物〜

〜物〜  
〜物〜

〜物〜  
〜物〜

〜物〜  
〜物〜

〜物〜  
〜物〜

〜物〜  
〜物〜

〜物〜  
〜物〜

山賊よ〜

〜物〜

〜物〜

〜物〜

〜物〜

〜物〜



毎度よりの旨の... 義の... 義の...

とん... 義の... 義の...

又母の指針... 之... 人

女... 義の... 義の...

花... 義の... 義の...

そ... 義の... 義の...

二... 義の... 義の...

三... 義の... 義の...

志林... 義の... 義の...

よ... 義の... 義の...

神... 義の... 義の...

よ... 義の... 義の...

一連歌百約... 十... 義の...

人... 義の... 義の...

教... 義の... 義の...

は... 義の... 義の...

脚... 義の... 義の...

一... 義の... 義の...

中... 義の... 義の...

は... 義の... 義の...









